

平成 29 年度 審議会及び部会審議経過

< 科学技術審議会部会（第 2 回） >

1 開催日時 平成 29 年 6 月 8 日（火）15:00～17:00

2 開催場所 かでる 2・7 9 階 920 会議室

3 議 題

（1）次期科学技術振興計画の検討素案について

（2）地域意見交換会の実施概要について

（3）その他

4 委員からの主な意見

【計画の体系（重点プロジェクトと基本的な施策）について】

- 基本目標、基本的な施策、重点分野の方が普通の並びで流れとしては良いと思うが、この検討素案の書き方はどこにポイントを置くかということで、重点を特出したもの。基本的な施策は、条例がある限り、道として推進しなければならない。書き方を含め要素の問題で、基本的な施策の上に重点プロジェクトがどう動いていくかということで、別物ではないと思う。

【重点プロジェクトについて】

- 基本的な施策もあり、重点プロジェクトだけやるというものではないので、もう少し絞った方が良いのでは。食・健康・医療などはもともと繋がっているが、これに観光などもっと大胆な融合は考えられないか。
- 本道の強み・可能性を持つ分野でという観点で取りまとめられていると思うが、北海道の課題ということで重要なこともあるのではないかと。たとえば、JR北海道やトラックや輸送における人手不足問題などであり、交通・物流でのシステムに関する技術開発を大きな柱としてもよいのではないかと。
- 観光のほか、防災、さらには介護など、産業に直結しないものを別立てとしては、基本目標「安全安心な生活基盤の確保」を達成するためのプロジェクトとしてどうか。
- 将来像を決め、バックキャストし、そこにいくまでの戦略をどうもっていくかが一番難しい。これができれば理想型であるが、なかなかそうはならないので、振興策を積み上げる形になると思う。ただ、社会実装しなければならない●の施策は、数値目標が出てくるかもしれない。
- 計画の組立としては、H29年度まで行ってきた取組のサーベイがあって、特に戦略的な取組として、「食・健康・医療」と「環境・エネルギー」。さらに、第4次産業革命として、IoTも5年間やっていくという流れ。定性的であるけれど評価が一本入って、これを踏まえた、重点プロジェクトという流れと理解している。
- 「Smart-H」などは文科省の支援があり、日立など大企業も参画。ハードも整備され、技術もすばらしいとわかっているが、そこまで進んだら、関係者の力で進めるもの。道として、5年、10年先を見据えた場合、そうしたのもプロジェクトしてあげるべきなのか。バックアップしないと頓挫しかねないものを拾い上げた方がよいのではないかと。
- この計画は、要するに行動指針。道として、こうした所にフォーカスして進めてきたということで、必ずしも資金を出したというものに限るものではない。高度なところは研究者にしか担えない、この分野、技術は重要であり、参画できる方々は参加しましょうという枠組み中の指針であると思う。

【コーディネート機能などについて】

- 「北海道発のベンチャービジネスの創出とファンド等の活用等」で、「ファンドの活用」では、

投資をしたいのだが、事業化できるシーズがないというのが実態。資金供給の問題は書き込まないといけないが、むしろ、事業化とか社会実装を目指すという研究開発があれば、その仕組みをもう少し強化するような取組をここに書き込んだほうが良い。

- また、事業化を確実に目指すのなら、大学内部の仕組みになると思うが、大学の出口戦略を持った研究開発を支援していく、そうした取組を入れていくべきではないか。
- コーディネート機能を持っている人は、科学技術寄りの人が圧倒的に多い。マーケットインの考え方ができる人は、コーディネーターとしては、殆どいないのが実情。また、どちらかというとなら大学寄りなので、最終的に事業化しようとしても、事業化の具体的なところまで至らない。
マーケット寄りのコーディネーターをもっと育てていかないと、最終的な出口まで到達しない。人材育成の部分では、そういったことを書き足してほしい。

< 科学技術審議会（第2回） >

1 開催日時 平成29年8月4日（金）15:00～17:00

2 開催場所 かでる2・7 10階1040会議室

3 議題

- (1) 北海道科学技術振興計画について
- (2) 北海道科学技術賞及び北海道科学技術奨励賞候補者の選考について（諮問）
- (3) その他

4 委員からの主な意見（次期計画に関するもの）

【重点化プロジェクトについて】

- 内閣府で検討している「まち・ひと・しごと」関連事業は、道の科学技術振興計画の中で生きてこなければダメだ。国が決めてからやるのではなく、我々が先行して検討していくべきだと考えており、是非活発なをお願いしたい。
- 多様な人々の暮らしと科学技術が結びついている絵があるとわかりやすい。
- 一時的なバズワードに惑わされるのは良くないが、AI/IoTについては、そう思わない。AI/IoTを如何に使いこなすかが重要。弁護士などもっと普通の仕事にも利用すると、かなり人手が削減できる。AI/IoTは、基本目標でも言及すべき大きなものだ。
- AI/IoTプロジェクトは、他のものと比較すると浮いてみえる。AI/IoTは、すべてのもの、自分たちの生活に関わってくる。総効率や生産性が向上すると理解すべき。
- 基本目標の「1 経済成長」の説明書きで「新たな価値」ではなく「付加価値」だと思う。
- 「基盤的な力」に「アントレプレナーシップ教育」とあるが、むしろ技術人材、地域指向人材を育てるべきだ。
- アントレプレナーシップよりも、学校教育に踏み込んで、チームで解決する力といった若い人材の育成を、方策を入れながら書き込むべき。
- オープンデータをどう構築していくか、行政が具体的に、もっと踏み込んでやっていくべき。
- 4つのプロジェクトは、2つの時間軸を意識しつつ、個々に詰めているし、今後も議論を進めていきたい。
- 重点化プロジェクトは、今までと違って踏み込んできている。具体例の絵が3枚ほどあると非常にわかりやすい。
- 誰が、どの程度、何をやるのか。状況が変わると、KPIも変わってくる。重点化プロジェクトは、ロードマップという位置付けで書いてほしい。